

第1学年1組 技術・家庭科 学習指導案

指導者 栄田直宏

1 題材名 「表計算処理ソフトでグラフを作成しよう」

2 題材の構想

(1) 題材について

主な目標と学習内容

- ・ 表計算処理ソフトに関心を持ち、意欲的に課題を解決しようとする。
- ・ 課題の解決に向けて、機能の選択や情報の処理に工夫して取り組んでいる。
- ・ 表計算処理ソフトの特徴と利用方法について知り、表計算処理ソフトの活用のしかたが身に付いている。
- ・ 入手した情報をより有効に活用する態度が身に付いている。

関連する既習内容

小学校では、各教科でコンピュータを活用した学習を行ってきており、その内容は主に文書処理や図形処理、インターネット検索である。また、中学校1年では、これまでに文書処理や図形処理等を中心に、情報とコンピュータの基礎的な学習を行ってきている。

(2) 題材に関する生徒の実態

学習集団の構成

1年1組、男子13名、女子13名、計26名からなる集団である。明るく元気で個性的な生徒が多く、授業にも個々の特性を生かして積極的に取り組んでいる。

家庭でのコンピュータの所有率は約30%、コンピュータの学習についてはほぼ全員が高い関心を示している。

関連する既習内容についての実態

生徒は小学校の頃から様々な学習を通してコンピュータに触れてきている。しかし、その内容は主にワープロソフトとブラウザの活用で、文書作成やインターネットによる情報検索等が中心であった。したがって、表計算処理ソフトの知識や活用能力は低い。

本題材に関する実態

本題材導入時のアンケート結果は次の通りである。

「表計算処理ソフトという言葉聞いたことがある。」・・・3人

「表計算処理ソフトでできることがわかる。」・・・0人

「表計算処理ソフトで表やグラフを作成したことがある。」・・・0人

「表計算処理ソフトを普段、使用している。」・・・0人

本題材では、表計算処理ソフトの基本操作を通して、文書作成以外のソフトウェアの活用について学習する。

(3) 題材の指導観とモジュール化の構想

本題材は、情報の収集・判断・処理が関わってくる内容である。これからの高度情報通信社会に生きる現在の生徒にとって、情報に向き合う態度は自らの生活に大きく影響するのである。そこで、表計算処理ソフトの活用を通して、自分で文書作成する情報以外の数値を処理し、活用していく態度を身に付けさせたいと考える。

重点目標と重点指導内容

情報を処理するということの意義を正しく理解し、コンピュータを活用して目的に応じた情報処理ができるようにする。したがって、単にコンピュータの操作面に偏ることがないように留意して指導していきたい。

モジュール化の構想

モジュールブックの作成においては、コンピュータの操作方法の羅列とならないようにし、課題解決に向けて生徒の思考の流れを大切にしたい。

グラフの作成については、生徒一人一人の意識の流れを生かしながらも、個々が入手した情報をより有効に活用するというねらいをしっかりと踏まえて、個性ある作品づくりに取り組ませていきたい。

また、本題材でのTV会議システムを活用は、専門的分野に限定して、技術的な指導をしていただくことにした。これは、後期に行う予定である家庭分野において、専門的な指導を行うことのできる教師がないという事情があり、授業の中で実習を進めていく中で専門的な指導をその時々指導していただくという形作りのためである。